



テルマエ通信 2017年度 第1号
【各ゼミ紹介】

「あいさつ」

皆様こんにちは。政策創造研究科坂本ゼミM2の伊丹です。新入生のみならずはもう学校生活に慣れましたでしょうか。ここでは先生も生徒も非常に多種多様な経歴や知識を持っています。なので、授業はもちろんのこと、生徒同士で交流を深めることで新たに知見を広げたり、協力して何か新しいことを始めたりすることができます。

さてそこで今回は政策創造研究科にある10のゼミの特徴や活動内容等を紹介していきます。それぞれのゼミがどのようなことをしているかを知ってもらい、横断プロジェクトに興味を持ってもらうことで、ゼミ間の壁を取り除き、より交流を深めてもらいたいと思っております。

政策創造研究科
修士課程2年 伊丹雅治

【高尾ゼミ】

一昨年、博士課程のゼミ生のみで発足した高尾ゼミも今年度は、博士課程4名、修士課程1年4名、2年6名の総勢14名のゼミとなりました。ゼミ生全員が社会人の経験があり、多種多様なバックグラウンドを持った個性あふれる魅力的なメンバーがそろっています。

高尾教授は、地域政策、幸福度、医療・介護それに経済と幅広い知識をお持ちなので、集まったゼミ生のテーマのキーワードも地域社会、おひとりさま高齢者、女性の自立支援、介護者、介護職員、疾病・疾患罹患者の就業支援、認知症サポーター、障害者についてなど多岐に渡っています。

今年度のゼミ活動は、外部講師をお招きしての講演や栃木県への施設見学、都内でのフィールドワークなどを予定しており、このような活動を通して、大学院生としての考察力を身に付けていく予定です。

また、輪読や先行研究の探し方、質的調査や量的調査の手法などの座学を通して、論文作成能力の習得を目指していきます。

高尾教授のご指導のもと、好奇心旺盛な仲間との語り合う時間を大切にしていきたいと願っています。

高尾ゼミ



【梅溪ゼミ】

梅溪ゼミは梅溪健児教授のもと、現象の背後にある経済的仕組みを探り出し、活発な議論を重ねています。小規模ながら、経済の成長と停滞、景気安定化、成長戦略、人口移動、東京集中、その他様々な社会問題を取り扱っているのも特長の一つです。経済に関する政策論議において、ほとんどの場合、答は一つではありません。データを丁寧に解き明かし、分かりやすく、説得力のある文章を書く能力を磨くことに注力します。修士論文、博士論文に向けた厳しく、かつきめ細やかな梅溪教授の論

文指導は、ゼミ生にとって大きな魅力です。「話す」「書く」のアウトプットを中心に、意義深い時間を過ごす梅溪ゼミを一度体験してみたいかがでしょうか。経済という英知へ、高い志を持つ方のご参加をお待ちしております。

【石山ゼミ】

石山ゼミの紹介です。2017年度は新たに4名のM1の方をお迎えし、修士課程17名、研究生3名、博士課程7名、併せて27名のメンバー構成となりました。今年からゼミの理念が掲げられ、

- ① 楽しい雰囲気、高い水準
- ② 気兼ねなく失敗
- ③ 完璧を目指す

できる安全な場をつくる(リーニングより)を心に刻み、日々の研究活動や学びの場を楽しむことに動しております。

石山恒貴先生のご専門は雇用及び人的資源管理で、民間企業でのご経験も長く、多岐にわたる分野での人脈が大

変豊富な先生です。また昨今は、今後の働き方を考えていく上で注目を集めるパラレルキャリアという考え方に着目され、その著書はもちろんのこと、さまざまなメディアにその活躍の場をひろげておられます。

ゼミの活動としては、いま注目を集める企業やMPOなどと連携した課外活動や合同ゼミが次々と企画されており、キャリアインテグレーション研究会、小学生・大学生向けキャリア出前授業の実施、室蘭市での高校・大学生へのキャリアワークショップなどオープンな学びの機会をますますひろげているゼミです。

石山ゼミの横断プロジェクトは、毎年恒例のマクロミル社に依頼するアンケート調査です。皆さんが論文を書き上げる上で必要となってくるアンケート調査をこのプロジェクトを通して作り上げられることが毎年好評を博しています。研究初心者にはなかなか理解しにくい質問の作り方からご相談に乗りましますで、ぜひ奮ってご参加ください。お待ちしております！

石山ゼミ



【上山ゼミ】

2017年度の上山ゼミは、上山教授の指導の下、学生・研究生をあわせ16名(博士課程6名・修士課程9名・研究生1名)が研究しています。今年度は昨年引き続き「協働」をゼミの共通のテーマとし、「東京都特別区における協働の取り組みに関する研究(仮)」と題して、プロジェクトを継続しています。

毎年、ゼミでは夏に行われる日本建築学会全国大会に参加し、研究論文発表



上山ゼミ



や各分科会等に参加し自身の研究を深めることにしています。昨年は九州の福岡大学で開催されましたが、今年は中国地方の広島工業大学で開催される予定です。また、横断プロジェクトも毎年行っていますが、昨年度は10月に千葉県千葉県の香取市を訪ね、行政へのヒアリングと“まち歩き”を行いました。今年度もまちづくりに特徴のある自治体を対象に横断プロジェクトを実施したいと考えています。

【須藤ゼミ】

須藤ゼミには、修士7人・博士1人、計8人の学生が所属しています。

一見、少ないように思えますが、他大学の学生やOBの方々に参加されており、それに加えて外部から飛び入りで参加される方もいらっしゃるので、毎回賑やかなゼミが行われています。

先生のご専門は観光社会学です。観光社会学とは、観光現象を切り口として社会を分析する学問です。調査のために観光地に赴くことは、ツーリズムとして観光地を眺める視点と全く異なり、そこから人間の、現代社会の在り様をまざまざと感じ取ることができます。ゼミ生も、それぞれの興味によって様々な視点から研究を進めているところです。

昨年度の横断ゼミでは、草津温泉、重監房資料館、軽井沢の星野リゾートホテルニテラスを見学しました。そこにあったのは、ヘルスツーリズムやダークツーリズムの一面です。
軽井沢では、観光地としての方向性について現地の方からお話を伺うことができました。

須藤ゼミ



【増淵ゼミ】

2017年度の増淵ゼミは9名の新生を加え19名の学生「修士課程17名・博士課程2名」が所属しています。これまで他大学で専任教授になられたOBは5名を数え、また地方自治体等からの受託研究も数多く手がけています。近年では国内にとどまらず、適宜、海外とのリレーションも積極的に行っています。増淵教授は放送局時代に「水曜どうでしょう」の鈴木貴之と番組を作り、またレコード会社時代には辻仁成の担

当及び、新人発掘においては中島美嘉・
「U・オレンジレンジ・チャットモニター」な
どの実績を上げています。現在はコンテ
ンツリズム、コンテンツによる地域
ブランド形成・メディア・コンテンツによ
る地域振興、コミュニティ再生などの研
究を中心に行っており、教員になって以
降、著作は単著・小峰ゼミ・高尾ゼミ3
共著で20冊を越え、その中から他大
学の入試問題にも使われています。昨
年度は、おにぎり文化論について研究し、
中国の大連の大学で実際に「おにぎり」を
現地の学生と共に握るなど講義を行いま
した。また今年度は、タイのタマサー
ト大学の客員研究員として、9月までタ
イに赴任しています。

このような増淵教授の幅広い知識の
もと、様々な研究テーマを持つ学生が
集い、学んでいます。具体的な活動内容
は、定期研究発表、フィールドワークな
ど様々です。定期研究発表では、研究
内容と進捗状況を報告し、学生でお互
いの研究について議論を深め、先生方か
らアドバイスをいただきます。フィール
ドワークでは街歩きを行い、訪れた地
域の文化やコンテンツを直に目にするこ
とで研究に活かしています。昨年度は、
神楽坂の街歩きを実施しました。また
横断ゼミプロジェクトも毎年実施してい

ます。昨年度は新潟県南魚沼市を訪ね、
地域産業の取り組みや地域資源の現状
について学びました。今年度の横断ゼミ
プロジェクトもこれから計画を立て、各
自の研究に役立てたいと思っています。

増淵ゼミ



【真壁ゼミ】

当ゼミナールは2017年度に開講い
たしました。本校においては、比較的、
歴史の浅いゼミではありませんが、一生懸
命に研さん・研究を重ね、皆様と活発、
かつ、意義ある議論の場を持てるよう
努めてまいります。どうぞよろしくお
願い致します。

真壁昭夫先生は旧第一勧業銀行(現、
みずほ銀行)にて債券を中心とするディ

ーリング業務など金融市場に関する業
務に従事されました。国内だけでなく、
ロンドン、ニューヨークでも各種金融関
連のビジネスに従事された御経験をお
持ちです。

また、各学会やシンクタンクなどに
おける政策提言などにも参画され、実
務、理論、それを応用した政策提言に
精通されています。行動経済
学の分野では国内初の学界を立ち上げ
られるなど、国内外で活躍の場を広げ
てこられました。

「こうした広く、深い」見識をお持ちの
先生の「指導のもと、当ゼミナールでは、
まず、マクロ経済への理解を深めること
を重視します。今、何が起きているか、
問題は何か、その解決策は何か」を自分
の言葉で考え、伝える力をつけます。

その上で、各人の関心に応じた研究を
進めます。今年度の具体的な研究分野
として、日本経済にとって重要性の高ま
っている観光産業、それに関する政策の
分析、金融市場の動向分析、資産運用
の高度化などの研究を進めています。

今後も、メンバーの研究対象としたい
テーマ、関心に合わせて柔軟にゼミナ
ールの運営を進め、一人一人がより広い
視野と洞察を持つことが出来るよう努
めてまいります。

【岡本ゼミ】

2017年度は、3名の方々新たにゼミの仲間となりました。現在は修士12名、博士課程5名が在籍しています。

ゼミでは毎回個人研究発表、輪読及び先生によるトピックが行われており、今年度一冊目の輪読は『経済成長理論入門』です。経済学「専門の岡本先生は、私たちゼミ生に“経済発展とは？”を考えるために、昨年度の「経済発展論」に続き、経済発展がテーマの書籍を選んでくださいました。経済成長の仕組みの解説には数式が数多く出てくるため、眩暈を起こしながら本と戦っております。

個人研究発表では各人の研究を発表し、先生や出席者からアドバイスをいただきます。厳しいご指摘をいただくこともありますが、論文執筆に向けて…。毎回、課題を取り上げてディスカッションも行ってまいります。

昨年度の横断プロジェクトでは「まち・ひと・しごと創生総合戦略と地域未来の実態調査」をテーマとして「京丹後市」を訪問しました。策定元である「京丹後市役所」、タクシーの新しい取り組みである「UBER」、運送企業による鉄道

経営としての「京都丹後鉄道」、道の駅「丹後王国」、日本一小さな百貨店「常吉百貨店」、京丹後の産業である「ちりめん歴史館」、「天橋立」、「伊根の舟屋」、「舞鶴港」などを調査、視察いたしました。

また、日々の活動としては、『現場へ出ることを主眼として、福岡県大川市、岡山県鏡野町などにおいて、官学協働で取り組んでおります。海外との連携を密にしており、毎年、数名のゲストを招いて交流も行ってまいります。本年度もゼミ生が一丸となり、地域産業の研究に邁進する所存です。

岡本ゼミ



【樋口ゼミ】

2017年度、樋口ゼミは新入生6名を向かえ、博士課程6名、研究生1名、修士課程9名、顧問1名、特任研究員2名、併せて19名のメンバーで活動しています。今年度は例年よりも社会人学生が多く、各回の議論でもそれぞれの経歴と知識に基づいた議論が行われています。

今年度のゼミ生は、CSRだけではなくCSRや消費者問題、100年企業についての研究など様々なテーマについての研究を進めています。各回のゼミでは、主に先生より提示されたテーマについての議論や参考文献の輪読、ゲストスピーカーの方々との意見交換など行っています。

樋口ゼミでは、横断ゼミの主導を新入生が毎年行っています。前年度の横断ゼミプロジェクトでは、兵庫県神戸市に訪れ、消費生活センターの見学や職員の方々との意見交換、また関西学院大学との学生同士の交流を行いました。今年度の横断ゼミプロジェクトも有意義な活動を行い、各自の研究に役立てていきたいと思っております。



樋口ゼミ



【坂本ゼミ】

全国の企業を7500社以上訪れ「いい会社」を「研究されている坂本光司教授の元、65名のゼミ生がフィールドワークやケーススタディーを重視した研究を行い、実際の現場や経営者の声をそれぞれの活動(経営)に生かしております。

業績重視・技術重視・シェア重視といった経営ではなく、人の幸せを重視する経営の実践こそが、結果として企業に安定的な好業績をもたらすという経営学の普及・深化のため「人を大切にする経

坂本ゼミ



「営学会」を通じた活動も行なっております。
横断プロジェクトは、坂本ゼミ生全員と行う全体研究(本の出版)です。テーマに則した中小企業を探し、出版会社の協力のもと坂本光司研究室著書として世に知らしめます。各自1社以上を受け持ちます。昨年は『日本の「いい会社」(シリーズ・ニッポン再発見)』をミネルヴァ書房から出版させていただきました。今年のテーマは「経営理念」です。

ゼミ横断プロジェクト説明会

6月17日(土) 18:30~

301教室

各ゼミの横断ゼミについて説明しますので
ぜひご参加ください!